

## 【社会】

## 「あいの分まで生きて」 父親がメッセージ

2007年11月22日 17時55分

広島市で2005年に殺害された市立矢野西小1年、木下あいりちゃん＝当時(7)＝の父建一さん(40)が22日、市立瀬野小の全校集会にメッセージを寄せ「皆さんはまだ若く、無限の可能性を持った宝物。生きている喜びを全身で感じ、あいの分まで長く生きてください」と呼び掛けた。

事件当時、矢野西小教頭だった瀬野小の木村満朗教頭が「命の大切さを伝えたい」と建一さんに依頼。約730人の児童を前に木村教頭が読み上げた。

建一さんはメッセージで、あいりちゃんの死に、何日も悩み深く悲しんだことに触れ「親は娘や息子のことをいつも心配している。何よりも一番愛しているのがお母さんやお父さんなのです」と説明。

「凶悪な事件や事故、自殺で亡くなる人は、一人一人が命の大切さを学び、他人を思いやる心を育てることにより、なくすことができる」と締めくくっている。

(共同)



木下あいりちゃんの遺体発見現場に設けられた献花台で手を合わせる男性＝22日、広島市安芸区

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.